

Center for Urban Earthquake Engineering
Tokyo Institute of Technology
20th May 2009

2009 5 20

人間環境システム専攻・教授・翠川三郎

阪神・淡路大震災の際に倒壊した家屋から助け出された人の約8割は家族や近隣住民によって救出されたと言われているように、防災に果たす地域社会の役割は大きい。特に、高齢化の一層の進展などにより災害弱者が増加し、地域社会における共助の果たす役割は益々重要になっている。このような背景のもと、地域防災力向上のための啓発事業などを推進するために、都市地震工学センターと横浜市鶴見区は昨年3月に震災対策推進に関する覚書を結んだ。従前より鶴見区は防災活動に熱心で、平成17年度には10の取り組み項目からなる鶴見区防災宣言をとりまとめた。これに基づいて、鶴見区では、過去の被害事例や避難所の場所を表示した看板を街の目のつくところに設置する、まるごとまちごとハザードマップの整備を始めとして、地域の特性に即した地域防災拠点運営マニュアルの見直しや地域防災拠点運営委員会による防災マップの作成、災害時要援護者支援の連絡・体制づくり、などの防災活動が積極的に進められてきた。

本センターとの覚書に基づく具体的な活動としては、「震災対策キャラバン隊」を結成し、本センターのメンバーと鶴見区の職員、消防署の職員、横浜市の職員の「学・官」がスクラムを組んで「民」である各地域の自治会の会合に押し掛け、地震と被害の解説から具体的な防災対策として、災害時の初期行動や住宅の耐震補強の手順、家具の転倒防止方法、地域でのつながりの重要性について説明した。本センターのメンバーは、地震災害に対する関心が高まるよう、地震と被害について最新の調査研究結果も含めてわかりやすく講義することに努めた。区、消防署、市の職員の方々も熱心な説明をされて、われわれにとって大変よい刺激となった。区長、副区長、総務課の強力なバックアップもあり、楽しみながら活動させていただいた。平成20年度は、合計で16地域の自治会にお邪魔し、1000名を越える参加者があった。評判も上々で、参加者の4割から大変良かったと、残りの6割から良かったとの評価を受けた。

私自身も何回か震災対策キャラバン隊のメンバーとして参加した。平日の夜に、ある自治会の会館にお邪魔すると、自治会の会合がちょうど終わった頃で、畳敷きの広間に30名くらいの方々が待ち受けていた。過去の大地震でのその地域での被害事例や首都直下地震で予想される揺れの強さ・被害の話、耐震補強の効果の話などを熱心に聞いてもらった。質問はありませんかという、何人かからさっと手が上がり、ここは地盤が悪く液状化が起ころうだから、そのことも詳しく話してくれとか、建物倒壊だけでなく地震火災の防止も重要なので、その対策についてはどうかとか、熱心な質問攻めにあい、ひや汗をかくはめとなった。別の公民館では、大学の先生がこんなところにまで良く来てくれたと強い握手で感謝され、大変恐縮してしまった。各地域にはそれぞれ熱心な方々がいて、この方々が地域の防災リーダーとなれば地域での共助の取組も進むであろうと感じた。また、参加された方々は若い方が少なく地域の高齢化が進んでいることも実感した。震災メカリスク軽減のためには、ささやかな活動ではあるが、最先端の研究と並行して、今後も地域防災力向上のための活動を進めていきたい。

Sixth International Conference on Urban Earthquake Engineering

東京工業大学都市地震工学センター(CUEE)では 21 世紀 COE プログラム「都市地震工学の展開と体系化」に引き続きグローバル COE プログラム「震災メガリスク軽減の都市地震工学国際拠点」をスタートさせて最初のキックオフとなる国際会議をさる 3 月 3 日、4 日に海外よりの研究者 95 名を含む 342 名の参加者を得て東京駅前、丸ビルホールにて開催した。本報告ではその概要について報告する。



J. Moehle

本 GCOE プログラムは、世界的に増大する震災メガリスクを軽減するため、21 世紀 COE プログラムで育ててきた教育プログラムを拡充強化し、国際的な教育研究連携体制を整備し、地震防災分野で「教育・研究の国際的リーダーシップをとれる人材」ならびに「問題発見から解決までのプログラムを国際社会でマネジメントできる人材」の育成を目指すものである。同時に、「東工大都市地震工学センターCUEE」の下に、地震に強い都市の創成・再生・回復のための「都市地震工学」に関する最先端研究を進展させ、国際会議、学生・若手研究者国際ワークショップ(WS)、研究者国際交流などにより、成果の情報発信と人材・知財・技術の国際展開を推進し、世界の地震工学の教育研究をリードする、わが国における都市地震工学国際拠点の形成を行うことを目的としている。

本会議開催に先立つ前日午後より、まずプログラムのカウンターパートナーである PEER (Pacific Earthquake Engineering Research Center)に所属する若手研究者と東工大若手研究者間での交流ワークショップ(写真 4)が開催された。本内容については別稿で紹介する。

本会議は翌 3 月 3 日 10 時より開始された。まず拠点リーダーである東工大・時松孝次教授(写真 1)により開会の挨拶がなされた後、R. Boulanger 教授より若手研究者の教育プログラムへの期待と前日に行われたワークショップの報告がなされた。



(1)

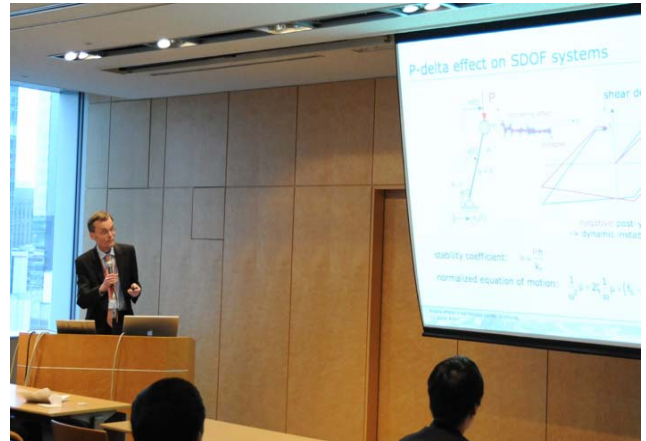
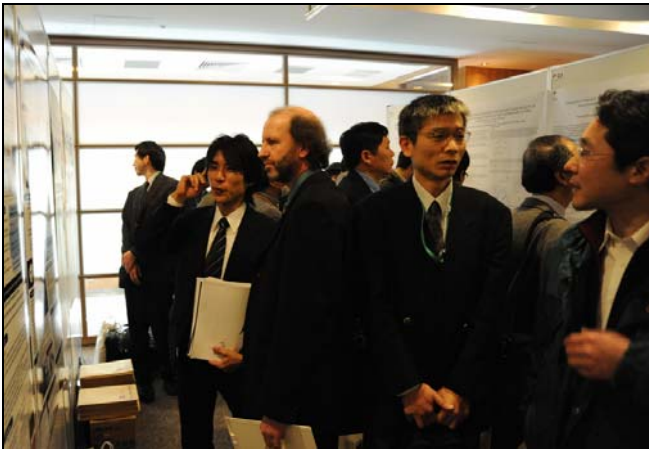
引き続き、午前中に亘り Keynote Lecture として K. Campbel 博士(ABS Consulting)、中林教授(東京首都大学)、J. Moehle 教授(写真 2)により、それぞれ地震動予測、都市被害低減、建物の損傷制御技術に関する最新の研究状況が紹介された。K.Campbel 博士からは震源からの距離に応じた地震動予測の最新手法についての紹介があった。中林教授からは首都圏で大地震が起こった場合の様々なリスク・マネージメントについての紹介があり、首都圏の昼間労働者が一斉に郊外に帰宅を始めた場合の幹線道路の渋滞状況の分析や、職場で 1 日待機する等の帰宅調整の必要性等が語られた。J. Moehle 教授からは米国西海岸における超高層集合住宅の構造システムの事例や損傷制御設計の考え方などが紹介された。

続いてホール前のホワイエにてポスター・セッション発表が行われた(写真 6)。今回の会議においては若手を中心に毎日約 17 名のポスター発表が行われたが、シニア研究者らの審査員による優秀発表者の審査を実施したため、昼食前にも関わらず大勢の参加者がパネルの前に立ち止まり、活発な質疑の応酬がみられた。

(1)

昼食後には 3 つの発表会場に分かれての平行・セッションが展開された。1 日目は、地震動、コンクリート構造、解析、リスク・マネージメントのそれぞれの分野において、それぞれ 10~12 編の口頭発表および質疑が行われた。この頃より外部よりの招待講演者や参加者の数も増え、それぞれの部屋で活発な議論が展開された。

引き続き午後の Keynote Lecture が東工大の川島一彦教授および NEES (Network for Earthquake Engineering Simulation) の S. McCabe 博士により行われた。川島教授からは兵庫県三木の E ディフェンスで行われた実大コンクリート橋脚の動的破壊振動実験の様子が報告された。動的圧縮応力下で橋脚コンクリートが粉状に粉砕される様子は強烈な印象を参加者に与えた。S. McCabe 氏からは NEES の施設群による米国各大学の実大部材実験の様子や実在建物を利用した大規模な耐震性能実験の様子が紹介された (写真 8)。





一日目の夕方には会場ホワイエでウェルカム・パーティが開かれ、多数の参加者で賑わった(写真 10, 11)。まず伊賀健一東工大学長より GCOE プログラムの意義と協力依頼を含む挨拶があり、その後国内外各所からの招待講演者や一般参加者、主催者間での賑やかな懇談が続いた。

(2) ()

2 日目は朝よりパラレル・セッションが行われ、まず設計と規準、地震動およびコンクリート構造（土木）が取り扱われた。「設計と規準」セッションでは中国建築研究所の王亞勇博士より四川大地震の被害報告があった(写真 9)。煉瓦造の校舎の倒壊の有無が生徒の生命の明暗を分けた状況が報告され、階段室を安全地帯にしなければならないと言う主張がなされた。建物の被害もさることながら山間部より流出した土石流により被害を受けた街が徐々に土砂に埋没していく様子が大きな衝撃を与えた。

続いて午後にかけて制振・免震構造、地盤・地震工学、橋梁、鋼構造、人間行動、津波のパラレル・セッションが行われた。免震・制振構造のセッションでは Stanford 大学の G. Deierlein 教授よりロッキング・フレームシステムの紹介と加力実験、2009 年夏の E ディフェンスでの振動実験の計画が紹介された。鋼構造のセッションでは Illinois 大学の J. Hajjar 教授より地震時の都市インフラの損害評価およびマネジメントに関する分析手法が説明された。豊橋技科大の加藤史郎教授からは地震時の避難所となる大スパン架構に制振部材を適用した場合の fragility 評価の事例が紹介された。昼前には 1 日目と同様にポスターセッションの時間が設けられ、活発な議論が展開された。

(2) ()

最終日の Keynote Lecture では、UC Berkeley の J. Bray 教授、UCB 教授で、本年 1 月より PEER 所長の S. Mahin 教授によりプレゼンテーションが行われた。J. Bray 教授は断層上に位置する建築物やインフラストラクチャーの



計画について述べ、表層断層が生じる危険性に配慮した構造物の設計の必要性について訴えた(写真 12)。米国では活断層上の建物の建設が禁止されている地域もあり、我が国における同種の配慮の必要性について質疑がなされた。四川地震の被害報告では表層断層上の建物の倒壊と、断層から離れて行くにつれ建物被害が低減する明確な関係性が見られた例が紹介され、説得力のあるプレゼンテーションとなった。引き続き、S. Mahin 教授により、地震後の構造物の継続性を確保するための様々な研究的取り組み—Friction Pendulum を用いた免震システムや基礎部ロッキング・システム、セルフ・センタリング RC 橋脚のコンセプト等—が紹介された(写真 13)。

最後にクロージング・セッションが行われ、R. Boulanger 教授(写真 14)より優秀ポスター発表者(海外招待講演者 2 名、日本人研究者 2 名)の発表および表彰が行われた(写真 15)。続いて M. Bruneau 教授(State University of New York at Buffalo, 写真 16)より本プログラムに対する期待が表明され、CUEE サブリーダーの翠川三郎教授(写真 17)より参加へのお礼と今後の協力の継続依頼の挨拶が述べられた。

参加者の皆様のおかげで、今回の会議は論文数 142 編、発表者数 138 名、全参加者数は 342 名を数え、無事 GCOE プログラム最初の国際会議を盛況の内に終えることができました。招待講演者からは有意義な会議であったと良い評価を頂いており、会議の運営にご尽力いただきました皆様に深く感謝致しますとともに、今後も本 GCOE プログラムへのさらなるご支援をお願いしたいと思います。



3月3, 4日に行われたポスターセッションでは、あわせて36件の発表があった。セッションの時間を越えて活発な質疑応答がなされるなど、大変盛況だった。また、今回の国際会議から、若手研究者の顕彰を目的として、優秀発表者に「Best Poster Presentation Award for Young Researchers」を授与することとし、国内外の委員からなる選考委員会の厳正な審査の結果、4名に本賞が授与された。以下に受賞者とそのコメントを示す。

柴山周平(東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻)

「この度はベストポスタープレゼンテーション賞をいただきまして、光栄に思っております。ひとえに指導教員の日下部・高橋両先生、並びに研究室の皆様の支えがあればこそだと思います。これを励みに今後研究を続けていきたいと思ひます。ありがとうございました。」

島田侑子(東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻)

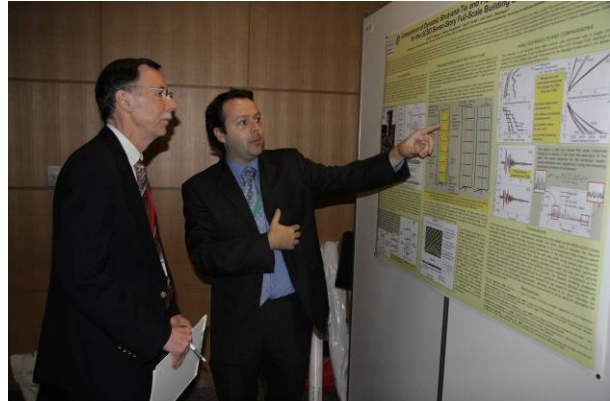
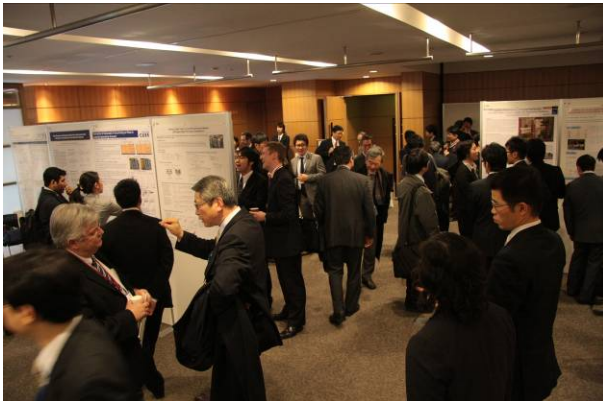
「今回このような賞を頂けたことを非常に光栄に思ひます。ポスタープレゼンテーションの経験は多くないのですが、図を中心にしたわかりやすいポスターの作成と、なるべく多くの方に対しての積極的な発表に努めたことが受賞に繋がったのではないかと思ひます。私にとって初めての受賞であるこの賞を励みに、今後も研究に邁進していきたく思ひます。」

Mr. Patrick Wilson (University of California, San Diego)

I am extremely grateful for the opportunity I had to attend the 6ICUEE and the young researcher's workshop in Tokyo, and to have received the award for my poster presentation. Throughout that fantastic experience, I was impressed not only by the excellent research presented, but also by the very generous hospitality of our most gracious Japanese hosts. I would like to also acknowledge the sponsorship from both the CUEE and PEER, and the excellent guidance from my advisor, Professor Ahmed Elgamal.

Ms. Barbara Chang (University of California, San Diego)

Thank you for presenting me with one of the awards for Best Poster. I was very pleased to be chosen, as there were many other excellent posters. Thank you also to the conference organizers and staffs who were extremely good hosts to us visiting students. I enjoyed my visit to the conference and to Japan very much.



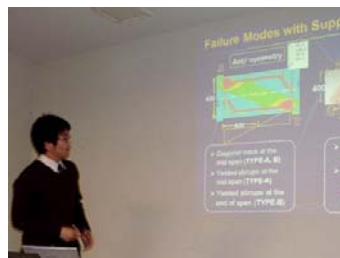
1. はじめに

平成 21 年 3 月 2 日、丸ビルホール（東京）において CUEE/PEER 若手ワークショップが開催されました。これは、都市地震工学に関わる日米の若手研究者が意見交換を通して視野と知識を広め、研究者間の交流促進を目指して実施されたものです。ここに、CUEE/PEER 若手ワークショップの概要を報告します。

2. テクニカルセッションおよび懇親会

若手ワークショップは、計 11 件の口頭発表と懇親会で構成されており CUEE 側から 25 名、PEER 側から 8 名の若手研究者が出席しました。配布資料として、講演者が発表に使用した PPT を印刷した概要集が、会議会場の夜景を背景にデザインされた表紙（右図参照）とともに用意されました。なお、ワークショップの講演者の研究分野は、コンクリート構造、地盤、地震被害調査、交通計画など様々でしたが、すべての発表を 1 会場で開催しました。したがって、参加した若手研究者の研究分野は多岐に渡りましたが、出席者にとっては視野が広がる良い機会となったようです。「地震被害を航空写真より評価する手法並びに被害想定を数学的に解析する手法等の、主に構造物の実験調査をしている自身にとって見慣れない研究に触れる機会が得られ、研究の視野が広がり大変有意義でした。（建築学専攻 D1：松井良太）」「地震工学に関わる様々な分野の発表を聞くことができ、自分の研究だけでなく地震工学の分野全体の課題を考えて行く上で非常に有意義な時間でした。（人間環境システム専攻 D2：石井一徳）」。

2 つのテクニカルセッションの司会進行は、セッション 1：Mr. Barbosa (UCSD)・西村助教、およびセッション 2：Ms. Birely (Univ. Washington)・田辺助教がそれぞれ担当しました。個々の発表に対して様々な分野の研究者から質問があり、時間を超過して活発な議論が行われました。なお、ワークショップでの講演内容については、“第 6



回都市地震工学国際会議講演概要集”に詳細が掲載されています。

懇親会は、井上教務職員の司会のもと、日本の文化を紹介するという意味で“Japanese SAKE Party”と称して、日本食レストランで開催しました。英語での会話に緊張する出席者も多かったのですが、日本料理や箸の説明をきっかけとして会話が弾み、生活の違い・大学・研究の話で盛り上がりました。「WSをきっかけとしてその後の懇親会や翌日からの CUEE シンポジウムでは数人の PEER の学生と研究内容についての意見交換や、研究生活の紹介をすることができました。（環境理工学創造専攻 D3：島田侑子）」。日米の風習違いは、時として研究に対する発想の違いにもつながると感じますが、その一端に触れることができ、貴重な会になったと思います。

3. 最後に

複雑な都市問題に対応した地震工学の発展には、研究者が幅広い視野と知識をもつことが重要であり、異分野も含めた研究者間、特にこれからの研究を担う若い研究者同士のネットワークの構築が不可欠であると考えます。本ワークショップは、開催直前に企画したにも関わらず多数の CUEE/PEER の若手研究者に出席頂きました。そういった点でも、本ワークショップの趣旨に対する若手研究者の関心の高さを感じられたとともに、本ワークショップが、PEER/CUEE の若手研究者同士の交流促進に対して、キックオフとしての役割を十分果たしたのではないかと思います。これを出発点として、今後も若手から積極的に G-COE プロジェクト推進に参画していきたいと思います。

なお、本ワークショップは、PEER側の出席者にとっても有意義な機会であったようで、PEERのHPでもその様子が報告されています。 http://peer.berkeley.edu/news/2009/peer_students_japan.html

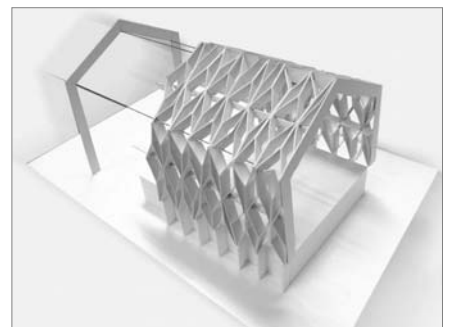
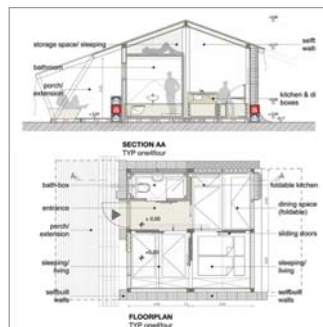
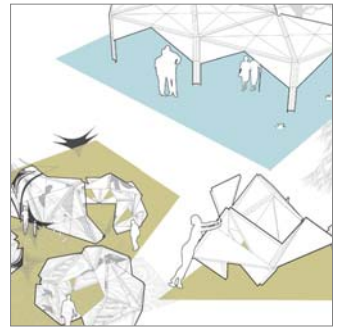
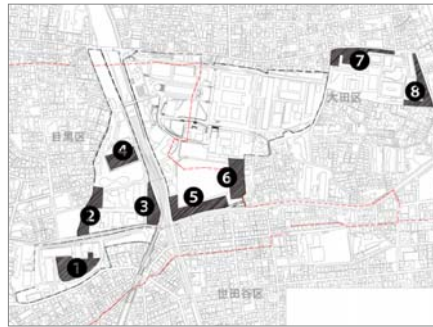


災害時の避難拠点となっている公園、学校などを、単なる一時避難だけでなく、中期、長期にわたる地域コミュニティ再建の拠点として活用できないかというのが今回のワークショップの課題であり、東京工業大学をサンプルとしたが、考え方としては、途上国を含む多様な立地と、自助建設や、国際協力など様々な建設形態を想定している。

共同相手であるウィーン工科大学住宅デザイン学専攻 Cuno Brullmann 教授のグループは、インドネシアで Tunami 後のコミュニティセンター、南アフリカで低所得者住居計画などの設計・建設に携わった経験がある。

東工大でのワークショップは2008年10月17日ー23日、その後、東京、ウィーン、それぞれで作業を継続し中間講評会を開催、最終発表会を2009年1月12日ウィーン工大にて行い、成果の英文報告を共同で企画・編集し、3月末に刊行した。

参加者は、東工大側：教授1、助教1、TA3、院生22人、講評者9、ウィーン工大側：教授1、助教1、SA2、院生17人、講評者3（詳しくは報告書参照）で、両校合わせると17国籍であり、CUEEの支援でこうした国際交流が実現したことは、計り知れない効果を若い人たちに与えたと自負している次第です。



開催行事

開催日	開催行事	場所	参加者
2008/5/31	第 106 回工学地震学・地震工学談話会	東工大 すずかけ台キャンパス	60 名
2008/8/23	第 107 回工学地震学・地震工学談話会	東工大 すずかけ台キャンパス	45 名
2008/9/24-25	2008 Taiwan-Japan Symposium on the Advancement of Urban Earthquake Hazard Mitigation Technology	台湾 国立中央大学	95 名
2008/10/6	グローバル COE プログラム「震災メカリスク軽減の都市地震工学国際拠点」キックオフシンポジウム	東工大 大岡山キャンパス	152 名
2008/10/6	第 1 回若手研究者都市地震工学シンポジウム	東工大 大岡山キャンパス	67 名
2008/11/11	第 1 回 G-COE 特別講演会（講師：Mr. Juan Murria）	東工大 大岡山キャンパス	30 名
2008/11/13	第 2 回 G-COE 特別講演会（講師：Mr. Bruce Maison）	東工大 すずかけ台キャンパス	10 名
2008/11/22	第 108 回工学地震学・地震工学談話会	東工大 大岡山キャンパス	36 名
2008/11/27	第 3 回 G-COE 特別講演会（講師：Mr. Bruce Maison）	東工大 すずかけ台キャンパス	13 名
2008/12/19	第 4 回 G-COE 特別講演会（講師：Dr. Troy A. Morgan）	東工大 大岡山キャンパス	40 名
2009/1/7	第 5 回 G-COE 特別講演会（講師：Prof. Stephen Mahin, Dr. Victor Zayas, Prof. Toru Takeuchi）	東工大 大岡山キャンパス	103 名
2009/1/21	第 1 回都市地震工学ミニシンポジウム 「災害リスク・コミュニケーションの論理と実践」	東工大 大岡山キャンパス	41 名
2009/2/21	第 109 回工学地震学・地震工学談話会	東工大 すずかけ台キャンパス	31 名
2009/3/2	第 1 回 CUEE/PEER 若手研究者ワークショップ	丸ビルホール&コンファレンス	33 名
2009/3/3-4	第 6 回都市地震工学国際会議	丸ビルホール&コンファレンス	342 名
2009/3/9-13	KU-NCU-TIT Joint Student Seminar	台湾 国立中央大学	61 名
2009/3/16	～基礎から始める都市地震工学シリーズ～第 1 回一般セミナー	田町キャンパスイノベーションセンター	55 名

海外招聘者

氏名	所属	氏名	所属
Christoph Adam	University of Innsbruck	Yingmin Li	Chongqing University
Nemkumar Banthia	The University of British Columbia	Chanzheng Liu	University of California, Davis
Andre R. Barbosa	University of California, San Diego	Stephen A. Mahin	University of California, Berkeley
Subhamoy Bhattacharaya	University of Bristol	Steven L. McCabe	The NEES Consortium, Inc.
Anna C. Birely	University of Washington	Jack P. Moehle	University of California, Berkeley
Ross W. Boulanger	University of California, Davis	Troy A. Morgan	University of California, Berkeley
Jonathan D. Bray	University of California, Berkeley	Robb Eric S. Moss	California Polytechnic State University
Michel Bruneau	State University of New York at Buffalo	Bruce F. Maison	El Cerrito
Kenneth W. Campbell	ABS Consulting (EQECAT), Inc	Juan Murria	Global Alliance for Disaster Reduction
Barbara Chang	University of California, San Diego	Mikhail Nosov	M.V. Lomonosov Moscow State University
Liang-Chun Chen	National Taiwan University	Eko Prawoto	Duta Wacana Christian University
Chih-Yuan James Chu	National Central University	Guna Selvaduray	San Jose State University
Maud Comboul	University of Southern California	Fuan Tsai	National Central University
Adam Crewe	University of Bristol	Kuo-Liang Wen	National Central University
Gregory G. Deierlein	Stanford University	Patrick Wilson	University of California, San Diego
James P. Hackett	State of California, Division of State Architect	Tso-Ren Wu	National Central University
Jerome F. Hajjar	University of Illinois at Urbana-Champaign	Wang Yayong	China Academy of Building Research
Hong Hao	The University of Western Australia	Lieping Ye	Tsinghua University
Songwut Hengprathane	Kasetsart University	Eric Yee	University of California, Los Angeles
Hsieh-Lung Hsu	National Central University	Victor Zayas	Earthquake Protection Systems
Jonathan Knappett	University of Dundee	Qu Zhe	Tsinghua University

海外短期研修/若手海外派遣

氏名	学年	専攻	期間	国際会議名称	国名
三浦 弘之	助教	人間環境システム	9/10-9/15	6th International Workshop on Remote Sensing for Disaster Management Applications	イタリア
柴山 周平	D1	土木工学	9/23-9/27	2008 Taiwan-Japan Joint Symposium on the Advancement of Urban Earthquake Hazard Mitigation Technology	台湾
渡辺 健	助教	土木工学	9/23-9/27	2008 Taiwan-Japan Joint Symposium on the Advancement of Urban Earthquake Hazard Mitigation Technology	台湾
島田 侑子	D2	環境理工学創造	10/11-10/17	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
浅田 勇人	D1	環境理工学創造	10/12-10/17	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
石井 一徳	D2	人間環境システム	10/12-10/20	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
井上 修作	教務職員	人間環境システム	10/12-10/17	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
吉敷 祥一	助教	環境理工学創造	10/12-10/17	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
桐生 聡史	D2	人間環境システム	10/12-10/17	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
鈴木比呂子	助教	建築学	10/12-10/18	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
鈴木 晴彦	D3	環境理工学創造	10/12-10/18	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
三浦 弘之	助教	人間環境システム	10/12-10/20	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
伊藤 浩資	PD	人間環境システム	10/13-10/18	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
吉田 洋之	D3	建築学	10/13-10/16	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
熊谷 知彦	助教	建築学	10/25-11/1	International Symposium IASS - SLTE 2008	メキシコ
渡辺 健	助教	土木工学	11/25-11/30	International Conference on Durability of Concrete Structures	中国
柴山 周平	D1	土木工学	1/10-1/14	The 6th Regional Symposium on Infrastructure Development	タイ
北原 寛司	D1	建築学	1/10-1/18	Post Disaster Tokyo	オーストリア
Kabir Shakya	D1	土木工学	1/11-1/15	The 6th Regional Symposium on Infrastructure Development	タイ
島田 侑子	D2	環境理工学創造	3/9-3/13	KU-NCU-TIT Joint Student Symposium	中国
松井 良太	D1	建築学	3/5-3/25	University of Illinois at Urbana-Champaign	アメリカ
Heng Sokbil	D1	国際開発工学	3/9-3/13	KU-NCU-TIT Joint Student Symposium	台湾
焦 瑜	M2	環境理工学創造	10/11-10/17	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
小島 康弘	M2	人間環境システム	10/12-10/17	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国
奥村 豪悠	M2	建築学	10/12-10/18	14th World Conference on Earthquake Engineering	中国

グローバルCOE研究員(PD)

氏名	専攻	研究課題
壁谷澤 寿一	人間環境システム	地盤構造物系相互作用を考慮した鉄筋コンクリート建物の耐震性能評価法
蒲 武川	人間環境システム	Expansion of PEER's Performance Based Design Approach to Vibration Controlled Structures
守田 正志	人間環境システム	トルコ共和国の都市・建造物における歴史的な地震被害の実態と震災復興および防災対策に関する研究
判治 剛	土木工学	鋼構造物の耐震性能に対する局所塑性ひずみ履歴による評価

グローバルCOE研究員(RA)

氏名	学年	専攻	研究課題
島田 侑子	D2	環境理工学創造	巨大地震に対する鉄骨造建物の崩壊挙動を含む終局耐震性能の評価
石井 一徳	D2	人間環境システム	地震動予測地図高度化のための DEM と衛星画像を利用した地盤分類マップの細密化
山下 拓三	D2	建築学	空間構造物の地震応答性状の体系的把握
浅田 勇人	D1	環境理工学創造	鋼構造建築物の高耐震化と耐震補強技術の高度化のためのブレース付露出型柱脚に関する研究
三平 洵	D1	人間環境システム	社会の地震防災力向上のための支援ツールの開発

日本学術振興会特別研究員

氏名	学年	専攻	研究課題
柴山 周平	D2	土木工学	浅層地盤中の山岳トンネルの地震時挙動と設計法に関する研究

開催予定日	開催予定行事	場所
2009/6/11	第2回都市地震工学ミニシンポジウム http://www.cuee.titech.ac.jp/sympo/	東工大蔵前会館（大岡山）
2009/6/26	以後、第3回（9月）、第4回（11月）を予定 ～基礎から始める都市地震工学シリーズ～第2回一般セミナー http://www.cuee.titech.ac.jp/seminar/	田町キャンパスイノベーションセンター
2009/8～9	以後、第3回（9月）、第4回（11月）を予定 第2回若手研究者都市地震工学シンポジウム	東工大 すずかけ台キャンパス
2009/8～9	第111回工学地震学・地震工学談話会 以後、112回（11月大岡山）、113回（2月すずかけ台）を予定	東工大 すずかけ台キャンパス
2009/9/21-22	2009Taiwan-Japan Symposium on the advancement of Urban Earthquake Hazard Mitigation Technology（台湾国立中央大学との共催）	台湾 国立中央大学
2010/3/3-5	7th International Conference on Urban Earthquake Engineering and 5th International Conference on Earthquake Engineering http://www.cuee.titech.ac.jp/conf/	東工大 大岡山キャンパス

2009/5/20

事業推進担当者：時松孝次（拠点リーダー）、翠川三郎（サブリーダー）、二羽淳一郎（サブリーダー）、笠井和彦、川島一彦、竹内 徹、山中浩明、日下部治、小河利行、廣瀬壮一、大野隆造、市村 強、盛川 仁、高橋章浩、大佛俊泰、山田 哲、竹村次朗、横山 裕、坂田弘安、林 静雄、青木義次、三木千壽、大町達夫、Stephen A. Mahin (PEER)、Ross W. Boulanger (PEER)

事業推進協力者：五十嵐規矩夫、福田大輔、藤井晴行、松田稔樹、室町泰徳、元結正次郎、Anil Wijeyewickrema、梶 秀樹、金箱温春、松田 隆、丸谷浩明、David B. Stewart、奥山恭英、藤井 聡、飯塚裕介、井澤 淳、大木洋司、吉敷祥一、熊谷知彦、鈴木啓悟、鈴木比呂子、西村康志郎、松崎 裕、三浦弘之、元木健太郎、渡辺 健、井上修作

2009/5/20

グローバルCOE研究員(PD)

氏名	専攻	研究課題
守田 正志	人間環境システム	トルコ共和国の都市・建造物における歴史的な地震被害の実態と震災復興および防災対策に関する研究
蒲 武川	人間環境システム	Expansion of PEER's Performance Based Design Approach to Vibration Controlled Structures
判治 剛	土木工学	鋼構造物の耐震性能に対する局部塑性ひずみ履歴による評価
松本 浩嗣	土木工学	鉄筋腐食を有するコンクリート構造物の耐震性評価技術の開発
王 韜	建築学	鋼構造部材の効率的耐震性能評価に向けた連成座屈挙動の解明と性能評価手法の確立
銭 征華	情報環境学	Seismogram Synthesis for Three-dimensional Multi-layered Media with Irregular Interfaces Based on Boundary Element Method

グローバルCOE研究員(RA)

氏名	学年	専攻	研究課題
石井 一徳	D3	人間環境システム	地震動予測地図高度化のための DEM と衛星画像を利用した地盤分類マップの細密化
山下 拓三	D3	建築学	空間構造物の地震応答性状の体系的把握
沈 麒	D1	人間環境システム	Analytical study on two-sided seismic pounding of structure against walls with elastoplastic property

日本学術振興会特別研究員

氏名	学年	専攻	研究課題
柴山 周平	D3	土木工学	浅層地盤中の山岳トンネルの地震時挙動と設計法に関する研究

152-8552 2-12-1-M1-39 226-8502 4259- G3-11
 Tel:03-5734-3200 Fax:03-5734-3200 Tel:045-924-5576 Fax:045-924-5199
 E-mail:office@cuee.titech.ac.jp URL:<http://www.cuee.titech.ac.jp/>